

令和3年度宇都宮市立上河内中学校学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

人間尊重の理念を基調とし、豊かな情操を備え、社会の変化に向き合いながら、常に目標を持ち、自ら学ぶ意欲を持ち続け、他と協働して粘り強く物事に取り組む心身ともに健康な生徒を育成する。

【校是：よく学び よく鍛えよ】

☆ めざす生徒像

- ・学び鍛える生徒
- ・自他を尊ぶ生徒
- ・気力あふれる生徒

☆ めざす教師像

- ・愛と情熱にあふれる教師
- ・研ぎあう教師
- ・実践する教師

☆ めざす学校像

- ・楽しく学びあえる学校
- ・協に伸びる学校
- ・信頼される学校

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- (1) 個に応じた教育を進めながら、生徒が生涯にわたって社会の変化に対応し、成長し続けることができるように、その基盤となる「知」・「徳」・「体」のバランスのとれた力の育成に努める。
- (2) 全教職員が使命感と意欲をもって学校経営に参画し、教育課程の具現化に取り組むことで生徒・保護者・地域の信頼や期待に応え、地域とともにある学校づくりに努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○「確かな学力」を育むことをめざして
 - ①学力調査等を活用した現状分析と改善策の検討並びに実践
 - ②習熟度別学習等による生徒の実状に即した指導・支援の推進
 - ③家庭学習の習慣化と充実に向けた指導の徹底
 - ④授業におけるアクティブラーニングの推進（主体的・対話的・深い学びの実現）
- (2) 「豊かな心」を育むことをめざして
 - ①道徳科を核とした心の教育の充実
 - ②体験活動や読書活動を通しての豊かな感性の育成
 - ③行事や係活動等を通しての自己有用感や自己肯定感の涵養
 - ④ボランティア活動や他と協働しながらの活動による「他者を思いやる心」の育成
 - ⑤茶道教室を体験することにより、日本の歴史や文化を学び愛国心の高揚を図る。
- (3) 「健康で安全な生活を実現する力」を育むことをめざして
 - ①健康診断や新体力テスト等による現状把握と改善に向けた取組の推進
 - ②食育や保健指導の更なる充実と推進
 - ③進んで運動に取り組む環境づくりの推進
- (4) 「未来を生き抜く力」を養うことをめざして
 - ①社会の動きに対しての興味・関心の喚起及び情報提供の促進
 - ②地域の教育力活用と生徒の地域行事への積極的参加の推進
- (5) 「教職員の資質・能力」と「学校のチーム力」の向上をめざして
 - ①OJT・研修等を通しての教師の授業力向上に向けた取組の継続
 - ②情報共有の推進と共通理解・同歩調による指導の充実
 - ③「働き方改革」を意識した勤務時間管理の推進
 - ④業務適正化（効率化・簡略化・削減）の推進
- (6) ○小中一貫教育と地域学校園の取組の充実をめざして
 - ①前年度に地域学校園として作成した小中一貫カリキュラムの確実な実践
 - ②発達段階に応じた小中一貫による学業指導の充実

[上河内地域学校園教育ビジョン]

かしこく、たくましいゆずっ子の育成 ～基本を身に付け、人とのつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

- (1) 基本方針
教育基本法、学校教育法にのっとり、新学習指導要領に基づきながら、上河内地域のある種独特の地域性や学校の実態及び生徒の心身の発達段階や特性を考慮して編成を行う。
- (2) 留意点
 - ①学校の教育目標や「めざす生徒像」、各教科の目標・ねらいとの整合性を図る。
 - ②社会とのつながりを重視し、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす。
 - ③学習指導要領で示されている各教科等の内容の指導に支障のないように適切な授業時数を確保する。
 - ④「総合的な学習の時間」発表会（11月の最終土曜日を予定）に向けて、「総合的な学習の時間」の特色を踏まえた教科横断的な視点に立った追究活動の推進や発表をめざした学習を進める。
 - ⑤学校評価との関連付けを図り、PDCAサイクルを機能させたカリキュラムマネジメントを行う。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営 ①生徒一人一人を大切に、個に応じた指導・支援の推進 ②安全面も含め、「学ぶ場」としての学校の環境整備の推進 ③いじめの根絶に向けた取組の推進と不登校対策の充実 ④「地域とともにある学校」づくりをめざし、地域と連携・協働した取組の充実・推進 ⑤業務の適正化推進による教職員の負担軽減と超過勤務時間の縮減 (2) 学習指導 ①確かな学力を身に付けさせるための授業展開や学習活動の工夫 ②家庭学習の習慣化とその充実に向けた指導・支援の強化 ○③地域学校園としての学習ルール指導を中心とした学業指導の充実による「学びに向かう集団」づくりの推進 (3) 児童生徒指導 ○①基本的な生活習慣を身に付け、高い規範意識に基づき行動する生徒の育成 ②生徒指導部会や教育相談・特別支援教育部会を中心とした組織的な対応 ○③体験活動・読書活動、さらには道徳科の授業等を通しての「宮っ子心の教育」の推進 (4) 健康（体力・保健・食・安全） ①給食や食農体験等の充実による地域の特色を生かした食育の推進 ○②検診結果を踏まえた地域学校園として連携した歯科保健指導の充実 ○③地域学校園の小中一貫カリキュラムを踏まえた運動生活の習慣化	
--	--

6 令和3年度自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習にとりくんでいる」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 本時のめあてを分かりやすく具体的に提示し、見通しをもたせる授業を展開するとともに、めあてに対する振り返りをさせる。 ②○必要に応じて、授業の中で話し合い活動を取り入れるなど、主体的で対話的な学習が進められるような学習形態を工夫する。 ③○図書委員会と協力して家庭学習ノートの提出を徹底し、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.1%（昨年よりも 0.8%↑）で、目標を 12.1 ポイント上回った。 ・疑問点を生徒同士で教え合う姿が多く見られた。 【次年度の方針】 ○「学習のルール」を通して授業を大切にする意識を高め、生徒が主体的に学べるよう、活動内容や授業形態を工夫する。 ○自主学習の提出率を上げていく工夫をする。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒生徒肯定回答 80%	①○思いやりの基本となる、相手の話を目・耳・心で聞くよう、話の聞き方について指導する。 ②○相手に対してどのように伝わるかなど、相手の心情を考えて話すよう意識させる。 ③ 生徒会と協力し、学期に1度“思いやりのある人”について表彰することで、生徒の思いやりに対する意識を高める。 ④ 学校行事を通して周りの人への感謝の気持ちも含めて振り返らせる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.4%（昨年度比較 2.2%↑）で、目標を 14.4 ポイント上回った。 ・誰に対しても分け隔てなく接する生徒が多く見られた。 【次年度の方針】 ○相手に対する話し方や聞き方を指導することを継続し、授業や学校生活を通して言葉の伝わり方を考えさせる指導の充実を図る。

目 指 す 生 徒 の 姿	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。」 ⇒生徒肯定回答 90%	①○学校行事（茶道教室等）や委員会活動、部活動を通して生徒と対話のできる関係と雰囲気づくりを推進し、マナーを守って生活することの大切さを指導する。 ②○道徳の授業や日々の生活において、時と場に応じた言動や相手への思いやりについて生徒に考えさせ、意識を啓発する。 ③○チャイム2分前着席や指名・指示されたときの返事を徹底する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 91.2%（昨年度比較 2.8%↑）で、目標を 1.2 ポイント上回った。 ○学校のきまりや時間を意識して守る生徒が増えてきている。 【次年度の方針】 ○さまざまな教育活動を通して、きまりやマナーの大切さに気付かせる指導に努める。 ○道徳の授業などを活用し、時と場に応じた言動や相手への思いやりについて生徒に考えさせ、意識を啓発する。
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒生徒肯定回答 90%	①○生徒会や教職員・PTA によるあいさつ運動を活発に行うとともに、部活動でもあいさつ指導の充実を図る。 ②○教職員が率先してあいさつをすることで、学校全体があいさつをする雰囲気を高める。 ③○あいさつ強化週間をつくり、率先してあいさつをする意識を高め実践させる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 98.6%（昨年度比較 2.0%↑）で、目標を 8.6 ポイント上回った。 ○常にあいさつが飛び交う様子が見られた。 【次年度の方針】 ○生徒会や教職員・PTA によるあいさつ運動を継続して行い、互いに率先してあいさつができるよう意識を高める。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 各学級で、1 年間の自分の目標（マンドラート）を作成させ、定期的に見直しをさせることにより、目標に向かって取り組むことを意識させるとともに達成感を味わわせる。 ② 定期テストにおいて、テスト計画表を作成させる際に、数値目標など具体的な目標を設定させ、計画的に取り組ませる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 87.4%（昨年よりも 2.9%↑）で、目標を 7.4 ポイント上回った。 ・テスト前に具体的な数値目標を設定し、計画的に課題に取り組む生徒が多く見られた。 【次年度の方針】 ・1 年間の目標を定期テストごとに振り返り、出来たことを認めて達成感を味わわせる。
	A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 保健だよりや健康委員会による「姿勢の日」の活動を通して、健康な生活について啓発をする。特に本地域学校園の健康課題であるう歯の受診率の向上に努める。 ②○新体力テストの結果を基に、不足している基礎体力作りに取り組む。体育の授業では計画的に補強運動を取り入れ運動量の増加を目指す。 ③ 自転車通学の生徒が多いので、登校指導や自転車点検、交通安全教室などの活動を通して、自転車の正しい乗り方、交通安全の意識を高める指導を徹底する。 ④ 新しい生活様式の徹底を図り、感染症拡散防止に努める。また、偏見・差別等が起きないように、心の教育を実践していく。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.3%（昨年度比較 0.9%↑）で、目標を 15.3 ポイント上回った。 ・う歯のあるものの、受診率は全国・県平均を上回っている。 【次年度の方針】 ・コロナ対策に準じた生活様式の徹底を図り、感染症拡散防止に努める。 ・感染症罹患者、あるいは濃厚接触者への偏見・差別等が起きないように、心の教育を実践していく。
	A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 羽黒山ボランティアや親子奉仕作業など、集団や地域のために働く機会を設定し、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動に取り組む。 ② キャリアパスポートを活用し、自己の活動を振り返らせることにより、新たな学習や生活への意欲につなげ、将来の生き方を考えさせる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 87.4%（昨年よりも 2.9%↑）で、目標を 7.4 ポイント上回った。 ・校内清掃活動の振り返りでは、地域のために働くことの喜びを実感している生徒が多く見られた。 【次年度の方針】 ・キャリアパスポートを活用し、保護者と連携を図りながら、目標実現のための取組をスモールステップで考えさせる。

A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①○英語による授業を行う。また、教員（ALTを含む）との対話活動や、生徒がペアになって自分の考えや気持ちを英語で伝え合ったりする活動など、生徒が発話する場面を多く設ける。 ②○チームティーチングの授業で、T1とT2が英語でのやりとりのモデルを多く見せることにより、生徒に自然とやりとりの仕方を身に付けさせる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は87.4%（昨年よりも2.1%↑）で、目標を7.4ポイント上回った。 ・感染症対策のためペアでの対話活動は減少したが、ALTや教師とのやりとりに意欲的に取り組む生徒が多く見られた。 【次年度の方針】 ○生徒が「話したい」という意欲を高めるよう、テーマ設定を工夫する。 ・感染症対策を徹底しながら、教師や生徒同士での対話活動やスピーチなど、生徒が積極的に発話する活動を多く取り入れる。
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「私は、宇都宮の良さをしている」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 地域の良さを知るために、地域の人と一緒になって行事に参加することにより「郷土愛」を育ませる。 ② 地域の行事には、積極的に参加するよう生徒に促すとともに、地域のボランティア活動に参加しやすいよう配慮する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は83.7%（昨年度比較4.7%↓）で、目標を3.7ポイント上回った。 ・感染症対策で地域の行事が無かったことが肯定率の低さにつながっている。 【次年度の方針】 ・地域行事へ生徒が参加しやすい環境を整えるとともに、宇都宮学や道徳科等での指導により、更に郷土愛を育む。
A 10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、PCや図書等を学習に活用している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 国語科の調べ学習において、積極的に図書室を利用する。また、他教科においても、授業で図書の活用を進める。 ② 総合的な学習の時間において、パソコンや実物投影機を利用して、調べ学習や発表に取り組ませる。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は87.4%（昨年よりも16.3%↑）で、目標を7.4ポイント下回った。 ・各教科の授業においてクロームブックを活用する場面が見られた。 【次年度の方針】 ・各教科等において、積極的に学校図書等を活用する。また、学習や発表などに、クロームブックを活用し、積極的にICT機器の活用にも努める。
A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 運動会への高齢者招待、福祉委員会による祥豊苑訪問や1日早い年賀状作成などの活動を通して、高齢者に対する理解を深め、いたわりの気持ちを育む。 ② 教育活動全体を通して、愛情を注いでくれる自分の祖父母や、ボランティアで地域のために活動する高齢者に対して、感謝の心や共に生きていこうとする気持ちを培う。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は94.4%（昨年度比較2.2%↑）で、目標を14.4ポイント上回った。 ・1日早い年賀状を高齢者への敬老の念をもって作成する生徒が見られた。 【次年度の方針】 ・学校行事や福祉委員会の活動を通して、高齢者に対する理解を深め、感謝や労いの心を育む。
A 12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、環境問題や防災等の持続可能な社会について、関心をもっている」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 生徒会と連携し、節電やリサイクルによる再利用について呼びかけ、回収活動を実施することで、生徒の関心を高める。 ② 避難訓練等を通して、火災や自然災害の対策を身に付けさせ、自ら考え行動する生きる力の育成を図る。 ③ 授業や学校行事を通して、「持続可能な社会」や「SDGs」について理解を深めさせ、身近なものに関連させる。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は76.7%（昨年度比較8%↑）で、目標を3.3ポイント下回った。 ・リサイクル活動に協力的な生徒が多く見られた。 【次年度の方針】 ・授業や学校行事を通して、「持続可能な社会」や「SDGs」について理解を深めさせ、身近に実施しているリサイクル活動と関連させる。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている」⇒教職員肯定回答 90%	① 生徒の様子を把握し、常に適切な対応ができるようにする。また、SCやMS等と連携を図り、個に応じた対応に心掛ける。 ② 生徒指導部会や教育相談部会等を定期的に行い、生徒に対する支援の共通理解を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%（昨年度同様）で、目標を 10.0 ポイント上回った。 ・教職員が連携し、生徒の実態に応じた適切な支援ができるよう共通理解が図られている。 【次年度の方針】 ・SCやMS等と連携を図り、支援の方向性を明確にしながら、適切な支援ができるよう、今後も組織的に対応する。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒生徒肯定回答 90%	① 休み時間の巡回指導や教育相談、嫌な思いアンケートを活用して、いじめを早期に発見する取り組みに努める。また、生徒の不適切な言動に対して細かな声掛けを行う。 ② いじめに対しては、いじめ対策委員会で組織的かつ迅速に対応する。 ③ 保護者会やHP、各種だより等で取組を周知する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.8%（昨年度比較 1.2%↓）で、目標を 5.8 ポイント上回った。 ・重大事案がなく、思いやりの心をもって学校生活を送る生徒が多く見られる。 【次年度の方針】 ・今後も、日々の指導や教育相談などのいじめを未然に防ぐ取り組みを継続し、早期発見・早期対応を図る。さらに、取組周知により意識を啓発する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、生徒がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」⇒生徒肯定回答 80%	① 教育相談部会において、不登校傾向の生徒について、SC、MSと連携した対応を検討し、全教職員が共通理解のもと支援に当たる。 ② Q-Uの結果や日記指導（スタンダードダイアリー）、学年共通のエンカウンター実施することで、学級集団としての状態や、生徒一人一人の意欲や満足感を把握し、学級経営に生かす。 ③ 自尊感情を高めるような声掛けを全教職員で実施する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 97.2%（昨年度比較 1.9%↑）で、目標を 17.2 ポイント上回った。 ・全教職員が共通理解のもと、生徒一人一人を大切に、個別対応を行った。 【次年度の方針】 ・日記指導や教育相談、学年共通のエンカウンター実施より生徒理解につなげるとともに、今後も居心地の良い学級づくりに努める。
	A16 教職員は、外国人生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「外国人生徒に対しての支援ができています」⇒教職員肯定回答 90%	① 英語科・ALTを中心とした授業を実践し、外国語の苦手意識を軽減させる努力に務める。 ② グローバル社会を意識し、生徒や保護者への適切な支援に心掛ける。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答率は 100%（昨年度同様）であった。 ・教職員は、性別を問わず人権に配慮した対応に努めた。 【次年度の方針】 ・授業や日常生活で、ALTとの英語によるコミュニケーションを積極的に推奨する。
目 指 す 学 校 の 姿	A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「私は、今の学校が好きです」⇒生徒肯定回答 90%	① 運動会や文化祭等の学校行事が感動ある活動になるように、生徒が主体的に企画・運営できるように指導する。 ② 生徒が自ら考える機会を数多くつくり自主的活動を充実させ、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりを推進する。 ③ エンカウンター等の人間関係を円滑にさせる取組を充実させるなど、居心地の良い学級づくりを推進する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 91.6%（昨年度比較 3.7%↑）で目標値を 1.6 ポイント上回った。 ・コロナ禍の中でも感染症対策を十分に行い、生徒の活動を可能な限り取り入れた結果と考えられる。 【次年度の方針】 ・生徒主体の教育活動や居心地の良い学級づくりを継続し、生徒の自己肯定感や集団への所属感を高める。

A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方の授業は分りやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒生徒肯定回答 80%	① T T やかがやきルームの利用など少人数指導の工夫により基礎基本の定着を図り、本時のめあてを明示し振り返りを記入させることにより、「分かる授業・できる授業」を目指し、指導法の改善に努める。 ②〇「表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業」をテーマとした「一人一授業」を実践し、個々の教員の授業力向上を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.3%（昨年よりも 2.7%↑）で、目標を 15.3 ポイント上回った。 ・「一人一授業」や校内研修を通して、各教員が授業力向上に努めた。 【次年度の方針】 ・本時の学習のまとめや生徒に学習を振り返らせる活動を充実させる。 ・「一人一授業」を継続実践し、生徒が主体的に学べる授業を目指し、教員一人一人が指導法改善に努める。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員肯定回答 80%	① 新しい学習評価や GIGA スクール構想の確実な実施に向け、教職員が一丸となって、生徒達のために共通理解を図り計画的に教育活動を実践する。 ② 各種委員会を定期的に開催し、リーダーを中心にそれぞれの教育活動推進と次年度に向けた検証を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%（昨年度同値）で目標値を 20 ポイント上回った。 ・新しい取組に対する研修会や日々の情報交換を通して、職員が一丸となって教育活動に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・教育活動及び学校運営をチームとして計画的に進め、教職員が協働する。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員肯定回答 80%	① 学校経営方針に基づき教育活動を実践するとともに、教職員が担う業務の明確化・適正化を検証する。 ② 職員会議や校務運営委員会での協議を継続し、会議等の効率化・適正化を図り、教職員が生徒に向き合う時間確保に努める。 ③ 宇都宮市部活動の指針に基づき、各部活の適正な計画立案に従い、望ましい部活動の在り方を実践する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 90.5%（昨年度比較 1.5%↓）で目標値を 10.5 ポイント上回った。 ・会議の議題の精選やペーパーレス化、定時退勤の呼びかけ等により、業務効率化に対する意識が向上した。 【次年度の方針】 ・教育課程の改善や業務内容の精選を継続し、生徒と向き合う時間を確保する。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①〇地域学校園内小中学校間の連絡・調整等を密に行い、小中合同あいさつ運動や進学先中学校訪問等における活動の充実を図る。 ②〇小中一貫教育における『ゆずっ子』の学びの 5 つの約束を意識させて学習に取り組ませる。 ③〇図書室の図書紹介ポップでの小中交流を生徒に広く周知する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 70.2%（昨年度比較 6.9%↓）で目標値を 9.8 ポイント下回った。 ・コロナ禍の影響により、計画していた多くの活動が中止になり、地域学校園内での交流を実感する機会が少なくなってしまった。 【次年度の方針】 ・オンラインでの小中交流ができるような新しい活動を取り入れる。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 家庭や上河内中学校地域協議会などと連携し、地域学校園の諸活動と関連させながら、農園活動や読み聞かせなどの地域人材を活用した諸活動を推進する。 ②〇郷土愛や愛国心を育てるため、梵天祭等への参加を促すとともに羽黒山等の清掃活動「羽黒山ボランティア」、茶道教室等を実施する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 78.6%（昨年度比較 1.9%↓）で目標値を 1.4 ポイント下回った。 ・地域人材を活用した校内での特色ある教育活動は規模を実施できたが、校外での活動を行うことはできなかった。 【次年度の課題】 ・今までの特色ある教育活動の更なる充実と社会に開かれた教育課程の実践を進める。

本校の特色・課題等	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者肯定回答 80%	①〇望ましい礼儀やマナーを育成するため、あいさつ運動や場に応じた適切な言葉づかいの標語募集等の取組や日常的な指導を、地域学校園内小・中学校及び地域協議会が連携・協力して行う。 ② 情報モラル教室や交通安全教室において企業等と連携・協力し、よりよい教育活動の充実を図る。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 85.0%（昨年度比較 7.0%↓）で目標値を 5.0 ポイント上回った。 ・地域学校園及び地域協議会と連携した教育活動を実施したが、コロナ禍により地域人材の活用の規模を縮小せざるをえなかった。 【次年度の方針】 ・家庭や地域社会と連携し、上河内の地域的特色を生かした教育活動を今後も継続していく。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者肯定的回答 80%	① 安全指導係を中心に全教職員で、校内安全点検を定期的実施し、校内の安全確保に努める。 ② 管理職や事務、学校業務委託員が連携を図り、施設等の迅速な修繕に努める。 ③ 感染症対策を継続し、生徒及び教職員、保護者等の健康に配慮する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 91.2%（昨年度比較 4.9%↓）で目標値を 11.2 ポイント上回った。 ・コロナ対策や施設の修繕を迅速に行い、感染症の流行予防や重大事故防止に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・定期点検結果の情報共有、管理職への迅速な報告、機動班の積極的活用により、利用者の安全・安心を重視した教育環境を整備する。
	A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、PC や図書等を学習に活用している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 情報教育担当や司書が学級担任と連携し、PC 及びタブレット、学校図書館図書、市立図書館の巡回図書等の活用を図る。 ② 読み聞かせの実施や図書だよりによる啓発などにより学校図書館を核とした読書活動の充実を図る。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 87.4%（昨年よりも 16.3%↑）で、目標を 7.4 ポイント下回った。 ・各教科の授業においてクロームブックを活用する場面が見られた。 【次年度の方針】 ・各教科等において、積極的に学校図書館等を活用する。授業中も、クロームブックを活用し、積極的に ICT 機器の活用にも努める。
	B1 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①〇小中一貫教育「ゆずっ子学びの5つの約束」の実践と、地域学校園協議会で課題として取り上げた適切な言葉づかいの継続指導を、協力して行う。 ②〇地域学校園協議会において、丁寧な言葉づかい運動を推進し、標語等を募集し成果があったかどうか検証する。 ③〇教職員が手本となるような言葉づかいをするよう心掛ける。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.8%（昨年度比較 9.2%↑）で、目標を 15.8 ポイント上回った。 〇生徒は正しい言葉づかいを意識し、地域住民に対する言葉づかいに丁寧な様子が見られる。 【次年度の方針】 ・小中一貫教育「ゆずっ子学びの5つの約束」の実践と、地域学校園協議会と連携した適切な言葉づかいの指導を継続する。
	B2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケート「先生はよいところを認め直すべきところはしっかりと指導している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 組織的な対応方針等を共通理解し、生徒の指導に当たる。 ② 生徒情報の交換を密にし、協力体制の中で、生徒のよさを認め、より個に応じた支援を行う。 ③ 校内公開授業や各種研修会で学んだことを生かし、生徒が主体的に授業へ取り組めるよう工夫・改善する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 98.6%（昨年度比較 1.6%↑）で目標値を 18.6 ポイント上回った。 ・教職員で情報交換を密にし、共通理解を深め、個に応じた組織的な支援に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・生徒の情報を共有し、授業や行事等で自己肯定感を高めていく指導に努める。

B3 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している 【数値指標】全体アンケート「生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している」 ⇒生徒肯定的回答 80%	①〇梵天祭、上河内地区体育祭、上河内福祉まつり、上河内文化交流会など、地域の行事があるときは、部活動を休みにして、生徒が積極的に参加できるようにする。 ②〇梵天祭後に、羽黒山の清掃活動「羽黒山ボランティア」を実施し、郷土を愛する心を育てる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 71.6%（昨年度比較 8.1%↓）で目標値を 8.4 ポイント下回った。 ・コロナ禍の影響で、地域の行事が全て中止になったが、校内美化活動に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・地域行事に積極的に参加する意識づけを行い、地域の発展に貢献できる生徒の育成に取り組む。
B4 自分の考えを豊かに表現する力と豊かな心（関心・感動・感謝・思いやり等）の育成が図られている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、文化祭や総合的な学習の時間などで、充実した発表ができた」 ⇒保護者肯定的回答 90%	① 生徒会活動等を通して、生徒が前に出て発表する機会を意図的に作る。 ② 「総合的な学習の時間発表会」の準備では発表の仕方を学ばせるなどして、発表の質を高める。 ① 各行事における振り返りの内容を工夫して、自分の感動体験をより実感させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.8%（昨年度比較 7.0%↑）で、目標を 5.8 ポイント上回った。 ・テレビ放送を活用した委員会活動や学校行事もあったが、多くの生徒が達成感を得ていた。 【次年度の方針】 ・「総合的な学習」の発表会の方法を工夫するなどして、今後とも生徒の発表する力を伸ばしていく。
B5 豊かな表現力を支える言語能力を向上させるため、読書の習慣化を図る。 【数値指標】全体アンケート「私は、読書が好きです」 ⇒生徒肯定的回答 75%	① 「朝の読書」の時間が充実するように、廊下の掲示物を作成し、生徒の興味関心に応じた図書の選定、探しやすく見付けやすい図書室の配架、定期的な学級文庫の入替等を行い、図書を借りやすい環境作りをする。 ②〇生徒会図書委員会活動の工夫による読書啓発、図書ボランティアをより一層活用した読み聞かせやブックトークを計画的に行い、読書に対する興味関心を高める。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 65.6%（昨年度比較 4.3%↓）で、目標を 9.4 ポイント下回った。 ・生徒の興味関心や実態に合わせた本を整え、学級文庫を充実させた。 【次年度の方針】 ・図書室利用計画を確実に実施するとともに、読み聞かせやブックトークは、感染症対策をして実施するなどして、生徒の読書に対する興味・関心を高める。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

1 全体アンケート結果の傾向

◇今年度は、アンケート質問において、昨年度と比較して10項目において肯定的回答が向上している。特に本校は、評価項目の A3, A4, A5, A7 のような否認知的な能力（きまりを守る・粘り強さ）などが向上しており、学校全体に落着きがみられる。このことから、学習面や学年・学校行事などに真剣に取り組む生徒が増えてきており、生徒一人ひとりの更なる成長が期待できる。

◆今年度もコロナ禍の影響により、「小中一貫・地域協議会」や地域との連携をして生徒を育てていく機会が減ったことにより、関係するアンケート質問において、保護者・生徒の肯定的回答が低下してしまった。来年度も引き続き感染症予防対策をしっかりととりながら、学校教育活動を推進していく。

2 評価項目の主な成果と課題

【主な成果】

(1) 学校運営全般

・A19「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」の評価項目において、教職員の肯定的回答は 100%（昨年度同値）であり、目標値を 20 ポイント上回るなど、関連する9項目中の7項目で目標値を上回った。

・新しい教育活動（新学習評価や GIGA スクール構想など）に対する研修会の開催や日々の情報交換を密にするなど、共通理解を深め、教職員が一丸となって教育活動に取り組み、学校経営方針の具現化に努めている。その結果、コロナ禍においても規模の縮小や期日変更などの工夫を凝らし、全ての学校行事を実施することができた。

今後とも、教育活殿の改善や業務内容の精選を図り、教職員の協働性を更に高め、生徒と向き合う時間を確保し、家庭や地域社会との連携を深め、「チーム上河内」の実現を図っていく。

(2) 学習指導

・A19「児童生徒は、ICT 機器や図書等を学習に活用している」の評価項目において、生徒の肯定的回答は昨年度に比べ 16.3%高い 87.4%であり、目標より 7.4 ポイント高いなど、多くの関連項目で目標を上回った。

・今年度より生徒1人1台クロームブックが貸与されたため、授業中のあらゆる場面で活用することが多くなった。また、クロームブックを使って授業中にレポートやスライドの作成を行っただけでなく、実技教科においても様々な利用が見られた。

今後ますます、クロームブックの活用が求められるが、それだけではなく図書資料も活用していき、生徒の学習に対する興味も高めていきたい。

(3) 生徒指導・健康安全指導

・A2「生徒は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している」の評価項目において、生徒の肯定的回答は、昨年度に比べ2.2%ポイント高い94.4%であり、目標より14.4ポイント高い。その他ほぼすべての関連項目で昨年のポイントを上回っている。

・教職員で共通理解のもと、相手の心情を考えて話すよう意識させる指導を徹底することができた。そのため、相手に対する話し方や聞き方、接し方が自然と身につく、誰とでも分け隔てなく接する生徒が多く見られた。

・生徒会活動を中心に、あいさつの大切さや相手の話の聞き方など、思いやりのある言動を促すことができた。

今後とも、教職員・生徒が同じ方向を見据え、思いやりの心をもった生徒が多い学校を目指す。

【主な課題】

(1) 学校運営全般

・A22「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。」の評価項目において、生徒の肯定的回答は78.6%(昨年度比較-1.9%)であり、目標値を1.4ポイント下回った。また、B3「生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している」の評価項目において、生徒の肯定的回答は71.6%(昨年度比較-8.1%)であり、目標値を8.4ポイント下回った。

・コロナ禍の中で、地域人材を活用した校内での特色ある教育活動は実施できたが、社会体験学習や全ての地域行事が中止になった結果、生徒が校外で地域の人材を活用した活動や地域との交流する機会が少なくなってしまった。

今後は、家庭や地域社会、小学校と連携し、社会に開かれた教育活動の実践に努め、コロナ禍においても校外での活動が再開できるような新たな取り組みを行っていく。

(2) 学習指導

・B5「私は、読書が好きです。」の評価項目において、生徒の肯定的回答は昨年よりも4.3%減少の65.6%であり、目標を9.4ポイント下回った。

・生徒の興味関心や実態に合わせた本を揃え、学級文庫を整備するなどして、朝の読書や休み時間の読書を充実させる教育環境を整えているが、自ら読書に親しむ生徒の姿は少ない。

今後は、図書室利用計画を確実に実施するとともに、ボランティア等による読み聞かせやブックトークの継続的な実施やお昼の放送での新着図書の紹介を行うとともに、朝の読書の改善、各教科の授業において積極的に学校図書の活用を図るなど、生徒の読書に対する興味・関心や読む力を高めていく。

(3) 生徒指導・健康安全指導

・A15「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童生徒を大切にし、児童生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている」で、保護者の肯定的回答が80.8%となっており昨年度より9ポイント下がっている。学校での取り組みがさらに保護者に浸透するよう工夫が必要である。不登校の問題は本校の大きな課題となっており、全教職員で問題意識を高め、対策を練っていかなくてはならない。別室登校、SC/MSの活用、学級経営の工夫など、できる可能性を見出して行動していく必要がある。

(4) 地域協議会

・教職員の評価や生徒の自己評価ともに肯定的回答が高く、学校全体が元気な証拠である。特に、言葉づかいに関しては急上昇している。今後も継続してほしい。

・コロナ禍の中ではあるが、多くの項目に肯定的回答の上昇が見られた。来年度は、感染予防対策をとりながら、地域協議会の事業を推進してほしい。

・今後も「確かな学力」が身につくよう学校全体で目指してほしい。

・ICT機器等を活用し、情報活用能力の向上や知識習得のため図書室の利用を推進してほしい。

・「持続可能な社会」について、世界共通目標であることから、次世代を担っていく中学生に理解を深める指導をお願いしたい。

(5) 生徒の様子

・授業参観の様子を見る限り、どの学年も落ち着いて学校生活や学習に取り組んでいる。また、登下校の自転車通学では安全運転に心がけており、いつもすばらしいと感じる。

・あいさつがよくできている。

・学校訪問時に元気な生徒の姿を見ると、嬉しい気持ちになる。

(6) 学校への要望

・2年連続で難しい状況の中、最善を尽くす学校運営に生徒・保護者も感謝していると思う。

・コロナ収束後は、これまで以上に交流や情報共有をし、地域全体で子供達を育てていければよい。

学校関係者評価

・多くの項目において、肯定的回答割合が昨年度及び市平均を上回るなど評価が向上していることは、学校をはじめとした関係者の努力の結果である。引き続き高い理念のもと、自ら学び、心身ともに健康な生徒の育成に取り組むことを期待する。

・教職員の肯定的回答割合が高く、R1からR3まで100%の項目も多い。チーム一丸となった学校経営がされていることが分かる。特に、ICT機器の活用では、昨年度の市平均と比較すると上回っており、取組の効果が表れている。

・A3A4A5A7のような非認知的な能力(決まりを守る・粘り強さなど)が昨年度と比べて上がっていることは素晴らしいことである。この資質が土台となり学力アップにつながっていくと思われる。

・教職員や学校に関する項目の肯定的回答割合が高く、志を一つにして教職員がチームとなって業務に取り組んでいる成果である。また、保護者が学校の目標をよく理解しているといえる。

・いじめ防止については、生徒の肯定的回答が高いなど、学校の取組に成果が出ていることを示している。また、SNSでのトラブルなどについても、生徒にその怖さを気付かせていきたい。

・「ゆずっ子学びの5つの約束」については、上河内地区小・中学校共通の取組であることを保護者や地域住民にも広く知らせるなど、更に学校及び地域学校園の取組を充実させ、地域にも知らせていくとよい。

・ICTや図書の活用については、小・中学校が連携して活用方法を工夫していく必要があるとともに、家庭でも学校と連携して、読書好きな生徒が増えるように取り組んでいくとよい。

・学校は、感染予防対策を徹底させながら授業や学校行事に、教職員が結束しながら目標を設定し、大変な努力をしていることが見受けられる。

・コロナ禍によるマスク着用の日常において、相手の気持ちの察し方等のコミュニケーションが重要であることから、学校と家庭・地域が連携して言葉遣い等の人間関係を円滑にさせる指導を継続・充実していくことが大切である。

・コロナ禍などの予測困難な社会状況において、思いやりなどの学校経営方針に掲げる「豊かな心を育む」ことが重要であることから、道徳科を中心とした教育の充実に期待する。

8 令和3年度のまとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

(1) 学校運営全般

- ・来年度も感染予防対策を徹底させ、生徒の育成及び学校教育活動の充実に努めていくことが大切である。また、新学習指導要領の完全実施2年目を迎えるに当たり、ICT機器を積極的に効果的に活用しながら、生徒一人一人の学習意欲を高めさせていきたい。そのためにも、教職員が共通理解を図り、一枚岩となって推進していく。
- 本校及び地域学校園の取組を保護者及び地域へ積極的に情報発信し、協働した取組を推進するとともに、上河内地域学校園内4校の連携を更に深め、地域と共にある学校づくりに努めていく。
- ・業務の効率化を図りつつ教育活動及び学校運営を計画的に複数体制で推進し、教職員の同僚性を高めるとともに、家庭及び地域との連携を大切にしながら「チーム上河内」の実現を図る。

(2) 学習指導

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、言語活動を通し、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成を図る授業展開や学習活動の工夫なども視野に入れ、本校の学力向上を図りたい。
- ・生徒が一人一台の端末を有効活用した授業を展開し、生徒が意欲的に学習し、それと同時に、ネットモラル等の指導を継続させ正しい端末の使い方を徹底させる。
- 家庭学習の習慣化とその充実に向けた指導・支援の強化をしていく。
- 地域学校園としての学習ルール指導を中心とした学業指導の充実による「学びに向かう集団」づくりの推進に励む。

(3) 生徒指導

- 基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守って行動する児童生徒の育成。(地域学校園)
- 生徒指導部会や教育相談・特別支援教育部会を中心とした組織的な対応を心掛ける。
- 体験活動や読書活動、道徳科の授業等を通しての「宮っ子心の教育」の推進に努める。

(4) 健康・体力等

- 給食や食農体験等の充実による地域の特色をいかした食育の推進に努める。
- 検診結果を踏まえた地域学校園として連携した歯科保健指導の充実に努める。
- 地域学校園の小中一貫カリキュラムを踏まえた運動生活の習慣化を強化する。